

## 授 業 概 要

(幼稚園教諭専攻科)

授業のタイトル (科目名)  保育内容 (言葉)	授業の種類  ( 講義・演習・実習 )	授業担当者  柳田 真理子	当該科目に関する実務経験  保育士
授業の回数 12回	時間数 (単位数) 24時間 (2単位)	幼稚園教諭専攻科 前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい及び概要] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 領域「言葉」の指導の基盤となる、幼児が豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基本的知識を身に付ける。乳幼児期の言葉の発達と言語環境の理論的理解を通して、乳幼児の豊かな心身の育ちを培うための保育者の役割を考察する。                      また、豊かな想像性と言語表現を促す児童文化財について、理論と実践を通してその意義と価値を理解し、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識、技術を習得する。</li> </ul>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1・保育内容「言葉」の学習内容と幼稚園教育要領における領域「言葉」から「言葉」の意義について理解する 2・領域「言葉」のねらい・内容について学び、理解を深める 3・子どもの言葉の発達～0歳～6歳児の子どもの言葉の発達のプロセスを理解する。 4・子どもの言葉と環境～子どもの言葉に対する感覚を豊かにする実践について環境構成を含めて考察する 5・子どもの言葉と環境～言葉に対する感覚を豊かにする実践について、環境構成について考察する。 6・保育者に指導・支援(援助)～言葉に対する感覚を豊かにする実践について、環境構成について考察する。 7・言葉での関わりに配慮を要する子どもへの援助・指導・評価～保育者の言葉が配慮を要する子どもに及ぼす作用について管理・支援・援助の視点で学習する。 8・保育者の言葉～保育者にとって子どもに対する言葉かけの重要性について理解する。 9・言葉と児童文化財(教材研究)～絵本・紙芝居・パネルシアター等、子どもの言葉を育む教材について理解する～ 10・言葉あそび～伝承遊び、言葉遊びを実際に調べ、実践していく。発表の機会を持ち、学びの共有をする。 11・児童文化財の実演を通して、それぞれにふさわしい方法(演じ方、与え方)があることを理解する。 12・「言葉」の指導計画の作成と、幼児期の「言葉」経験が就学後の「国語」を学ぶ基盤となることを理解する			
[使用テキスト] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業テキスト：「保育者をめざす人の保育内容「言葉」 駒井美智子 著 (株式会社みらい)</li> </ul> [参考テキスト] <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園教育要領 (平成29年3月告示 文部科学省)</li> <li>・ 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省)</li> <li>・ 保育所保育指針 (平成29年3月告示 厚生労働省・日本保育協会)</li> </ul>			
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し学内共通の基準による絶対評価を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 考查点(75%)</li> <li>・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。</li> <li>・ 平常点(25%)</li> <li>・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。</li> <li>・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。</li> </ul>			